



東京金山会通信 No.27

東京金山会 広報担当 (藤山善夫)
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

東京は街の草木が色濃く緑を帯びて、夏風の香りが少しずつ近づいています。暑さ対策の季節になりましたね。今回も不定期掲載の「東京金山コラム」と「都会で頑張る金山出身者」をお届けします。

「東京金山コラム」Vol.6 「東京タワーと星空」

仕事終わりの夕暮れ時、芝大門から芝公園へ歩いていると、大きな東京タワーが目の前に。今夜も優しいライトアップで綺麗な光に包まれている。

ふと夜空を見上げると、薄明かりのぼんやりした空。やはり金山の夜空を思い出す。



「満天の星空」は金山の宝物
夏の金山の星空には、たくさんの星座があり、星があり、見上げると、星に押しつぶされるくらい、たくさんの星が輝いている。

東京には金山のような満天の星空はない。「満天の星空」のシャワーを浴びに、星が降ってくるくらい綺麗な金山の夜空に、また会いにいきたい。

「都会でがんばる金山町出身者」

13人目

十日町出身の吉野ミヨ子(旧姓佐藤)です、85歳です。日本橋の洋食店に嫁ぎ、長年家業を切り盛りしてきました。お店も今年で創業102年になり息子が3代目を継いでいますが、私は今も毎日自宅から通い繁忙時間は接客をしています。これまでに金山からも大勢の人が働きに来てくれました。中には店で修業をして資格を取り巣立っていった人もおり、その姿をみるのが楽しみでした。いろいろ苦労もありましたが、金山気質の我慢強さと生真面目で乗り越えてきました。店を次世代につなぎ、元気に働き、余暇は趣味を楽しむが一番幸せだと感じています。毎年のように帰っていた金山もこのコロナの影響で帰ることが出来ずさみしいです。今まで日常生活ではほとんど出なかった金山の言葉が、このごろは頻繁に出るようになりました。懐かしい風景や山菜の味、友人たち、やはりふるさとはいいですね、いつまでも繋がってほしいです。このコロナ禍を乗り切って、皆さんと懐かしいふるさとの話をする日が一日も早く来ますことを願っています。



No.185 「森の子ども図書コーナー」 交流サロンぽすと内



「そりゃあもう いい日だったよ」
(荒井良二/作 小学館)

僕はぬいぐるみのクマ。初めて手紙をもらったんだ。本物のクマから手紙を！そりゃあもう、いい日だったよ！バスに乗って、運転手さんにクマに会いに行くんだよって言ったら、乗せてくれたんだ。そりゃあもう、いい日だったよ。

ロープウェイの係の人もとっても優しくったよ。そりゃあもう、そりゃあもう！
ぬいぐるみのクマが、手紙をくれた相手の元を訪ねて旅をするのですが、「そりゃあもう！」なことがいっぱい。初めてのドキドキ感とウキウキ弾む気持ちが満載の絵本。



ドキュメント(湊かなえ) / Story for you (講談社)
小説8050 (林真理子) / 百合中毒 (井上荒野)

「図書室だより」 中央公民館内 9:00 ▶ 16:00

『方丈平家物語』
(伊藤俊也/幻冬舎)
京都日野にある某寺で、伝鴨長明作「方丈平家物語」が発見された。鴨長明が、無常感だけでない彩りの満ちた自らの人生と、平家一族の栄枯盛衰、源氏の台頭といった同時代を重ね、起こったこと、見たことをつぶさに記録している。まさに記録する男・鴨長明の面目躍如を果たしたこの書は、本物か、それとも偽物か。



『身近な雑草たちの軌跡』
(森昭彦/SBクリエイティブ)
「雑草」と呼ばれる身近な植物を中心に、びっくりするほど美麗な姿から、不思議な名前の由来、恐ろしく多彩なバリエーション、ディープな生態まで紹介。ほんの少しのムダ知識で、ご近所の道ばたや空き地も輝いて見えてくる、楽しい《植物観察ライフ》をどうぞ。



今月は7冊！

終活の準備はお済みですか？(桂望実) / 旅するガラス屋 (松原始) / 白鳥とコウモリ (東野圭吾)

地域おこし協力隊 通信 No.2

隊員 鈴木 ともひろ 朋広

馬車馬シエラ、近日やってきます！



神室の放牧場と、馬の「きらら」と「つやひめ」です！

こんにちは、地域おこし協力隊の鈴木です！馬を活用した観光誘客、関係人口の創出を目指して活動していきます。4月に着任してからあつという間に3ヶ月ほど経ちました。ちょうどこの広報が出る7月の頭には、カムロのしんきんの森に、はるばるヨーロッパから新しい馬がやって来ていると思います。馬車を曳いたり、重い荷物を引っ張る大きな馬で、体重は1トンほどあるらしいのですが、実物は来てからのお楽しみです。



Facebookで活動を発信しています！ぜひチェックしてください！



シエラのために、厩舎を整備しています！

放牧するための牧草地の準備をしたり馬が運動するための馬場を整備したり。馬の家である厩舎を整備したりと。そして、いよいよ馬が到着したら早速馬車を曳く練習に取り掛かります。まずは、カムロ近辺や、セラピーファーム周辺を馬車で歩き回ります。上手に馬車を曳くことができるようになって、早く多くの人に馬車体験してもらいたいと思っています。馬車や大きな馬の様子を見ることができると思うので、近くいらした際は、皆さんぜひ遊びに来てください。

ふんばい

金山杉俳句会報 第四五二回

星川 キエ子
ワクチンを打って安堵の鯉幟
息災を宝と思ふ朧の夜

岸 昭子
初蝶のたどたどしさも寸の暇
孫在りて粽送れる至福かな

高橋 洋子
餌を撒く鯉より早く寄るメダカ
夫とゆく幻想の森繁り濃し

鷗沼 よし子
藍染の染め斑が好き夏帽子
少年の瞳 眩き新樹光

阿部 一代
春の日を背に受け朝の茶を啜る
霧雨に萌黄の春が進みゆき

阿部 サタエ
鯉のぼりコロナに負けじと勢ひよき
病癒え友の笑顔やあやめ咲く

かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子
独り占め居間より眺む山桜
夫 眠る墓森閑と春の暮

荒屋 関 喜美子
夏の月ヒロインとなる一夜かな
芍薬を手向けて報らす仲間入り

菅越 庄司 けみ子
露を煮る苦みも大地の恵みかな
雹降りて変わり果てたる畑の様

七日町 青柳 キエ子
ぼうたんや崩れて庭の地を染める
菖蒲湯や亡父の笑顔の見え隠れ

羽場 坂本 徳太郎
窓越の枝垂れる梅の稔りかな
五月雨の入りきて広き白竜湖

上台 阿部 一步
積年の友と別れや梅雨の中
懸崖の青葉に光る小松淵

七日町 村松 奈風
草笛や吾には遠し少年期
爆音の去りて静もる植田の面